

## 3 生涯職業能力開発体系に基づいた在職者用の教材

### 3. 1 基本的考え方

職業能力開発のマップとしてモデル体系図が作成され、各施設における事業主団体方式によるオーダーメイドの職業能力開発事業と相まって社会に密着した「職務」を強く意識し、時代の変化に適応できる段階的・体系的な職業能力開発を推進しようとしている。ここで、生涯職業能力開発体系に基づいた教材とは、以下の5点について考慮されたものを意味する。

- (1) 「職務」に根ざした職業能力開発を実施するために段階的、体系的な教材
- (2) 民間・各種公的機関等と共に開発
- (3) 教材情報のオープン化（教材の公開）
- (4) 産業の動向をリアルタイムに反映
- (5) セミナーカリキュラム情報と講師情報とがリンクされた教材情報提供

体系図に基づいた教材開発を行うことは、できるだけ早く体系図上のカリキュラムモデル毎に開発を行い、教材が整備されてはじめて体系図に基づいた教材としての意味がある。しかしながら、生涯職業能力開発体系図の規模からしても、雇用促進事業団だけの人的資源では教材を整備するのに労力と時間がかかりすぎる。事業主団体からは即効性、即時性を要求される。機動力のあるタイムリーな職業能力開発情報の提供、職業能力開発の実施には、事業主団体から生涯職業能力開発体系の考え方に対する理解を求め、官民の協力による生涯職業能力開発体系図の育成に努めてもらえるような体制の基盤整備が必要である。

生涯職業能力開発体系図は各業種別、職務別に職業能力開発の道しるべと具体的な能力開発カリキュラム事例等が各種様式によって表され、各レベル表示毎に平成2年度から整理した能力開発セミナーカリキュラムモデル約2400コースが体系図上にマッピングされ、具体的な職業能力開発情報の提供を行っている。

モデル体系図のコース別能力開発体系（様式4）とカリキュラムモデル（様式6）によって、31業種の広範囲に渡る体系図上での能力開発セミナーカリキュラムモデル毎に教材情報が付属していれば、実際に能力開発セミナーを実施する際に現場の指導員に対してきわめて有用な支援ツールとなることは間違いない。前述したように職業能力開発のマップ上にこのような教材情報がマッピングされていれば、職業能力開発

事業が円滑に推進できる。従来のように闇雲に教材開発を行うのではなく、体系図に沿って計画的に教材開発が可能となる。

そこで、下記に述べるような研究テーマに対する考え方とその研究成果によって、「生涯職業能力開発体系図」が成長しやすい環境を醸成し、その成長する仕組みを構築することで雇用促進事業団が世界に誇れる生涯職業能力開発体系図に基づいた教育・能力開発分野の教材という一つのコンテンツ（内容物）を保有することができる。

### 3. 2 教材に求められる機能と開発体制

【利用者側から求められる機能】

(1) オン・デマンドに対応した教材

- ・いつでも、どこでも、誰でも、必要な量

(2) 情報の公開

- ・教材リストの公開
- ・教材のパッケージ化
- ・生涯職業能力開発体系に基づいた教材情報提供システムの構築

(3) 高付加価値化

- ・最新で、段階的・体系的であり、利用価値の高い技術情報を含む。すなわち、質の高い教材
- ・理解しやすい工夫のある教材

以上の要求に対応できる次のような教材開発支援組織体制が求められている。

【教材開発支援組織体制】

(1) リアルタイムな開発体制

- ・タイムリーで技術革新に追従できること。

(2) ティーム方式

- ・産業界及び公的機関との連携
- ・教材情報の公開と共有化システム
- ・教材テーマ別のグループ制の採用

(3) 省力化

- ・指導員のマンパワーを最大限に活用
- ・教材の共有化

- ・市販教材の有効活用
- ・教材の編集・印刷・出版の外部委託

(4) **メンテナンス**

(5) **教材作成技法の研究開発**